

2 少子化の現状・市民意見の把握

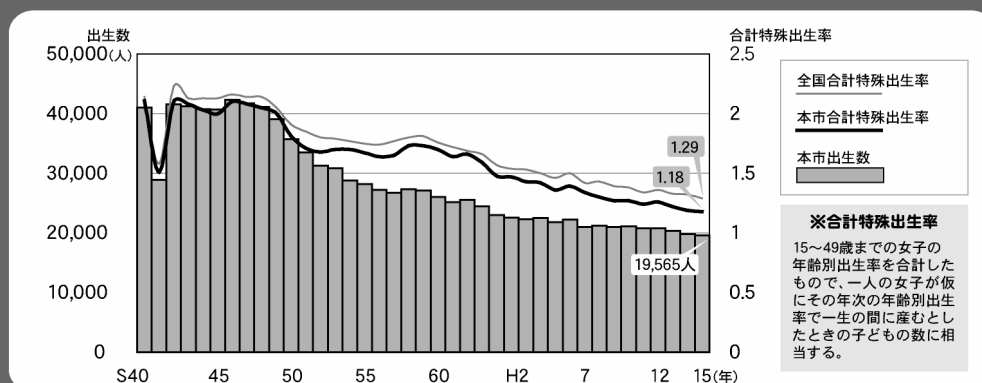
これまでの施策で何が足りなかったのか、今後取り組むべき施策は何であるかを考えるにあたって、名古屋市の現状を把握するとともに、子どもや子育て家庭、子育て支援団体、有識者など市民のさまざまな意見をお聞きしました。

1. 本市の少子化の現状

① 合計特殊出生率と出生数の推移

出生数は、最も多かった昭和46年の42,280人から、平成15年には19,565人となり、半分を割っています。また、合計特殊出生率は、全国数値より低く、昭和46年の2.10から、平成15年には1.18に低下しており、3年連続で過去最低となっています。

合計特殊出生率と出生数の推移



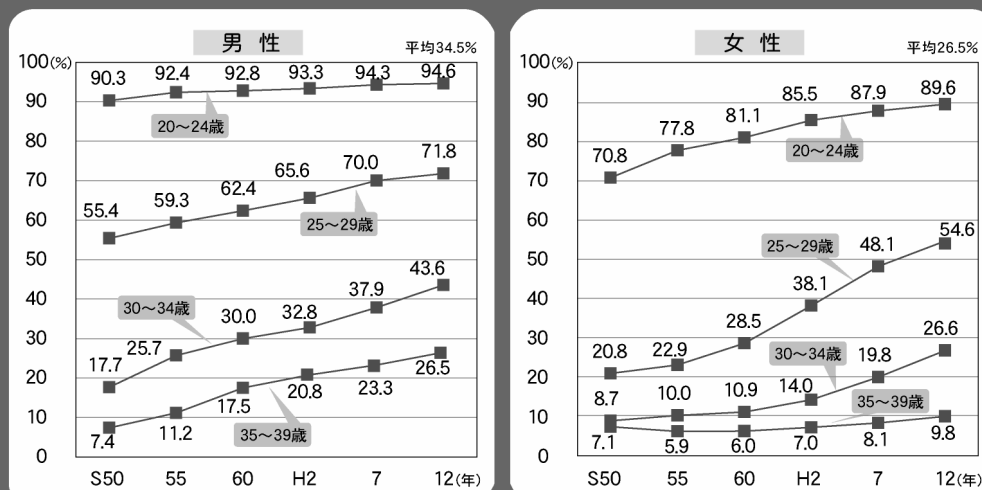
(厚生労働省「人口動態統計」、「名古屋市健康福祉年報」による)

② 未婚率の上昇の現状

未婚率の推移を年齢別にみると、男性、女性ともに昭和50年代以降増加しており、平成12年における25～29歳の女性の未婚率は5割を超えています。

35～39歳の女性の未婚率は、全国の13.8%に比べて、本市は9.8%と低くなっています。

未婚率の推移

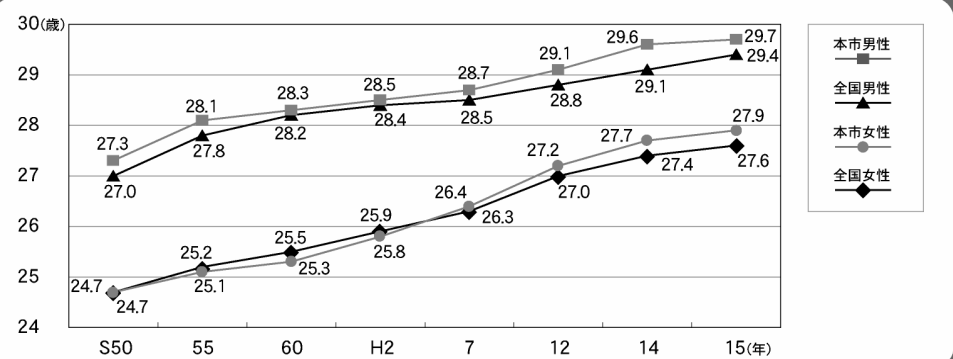


(総務省「国勢調査」による)

③ 晩婚化の現状

平均初婚年齢の推移をみると、平成15年は、男性29.7歳、女性27.9歳となっており、全国と同様、右肩上がりです。

平均初婚年齢の推移

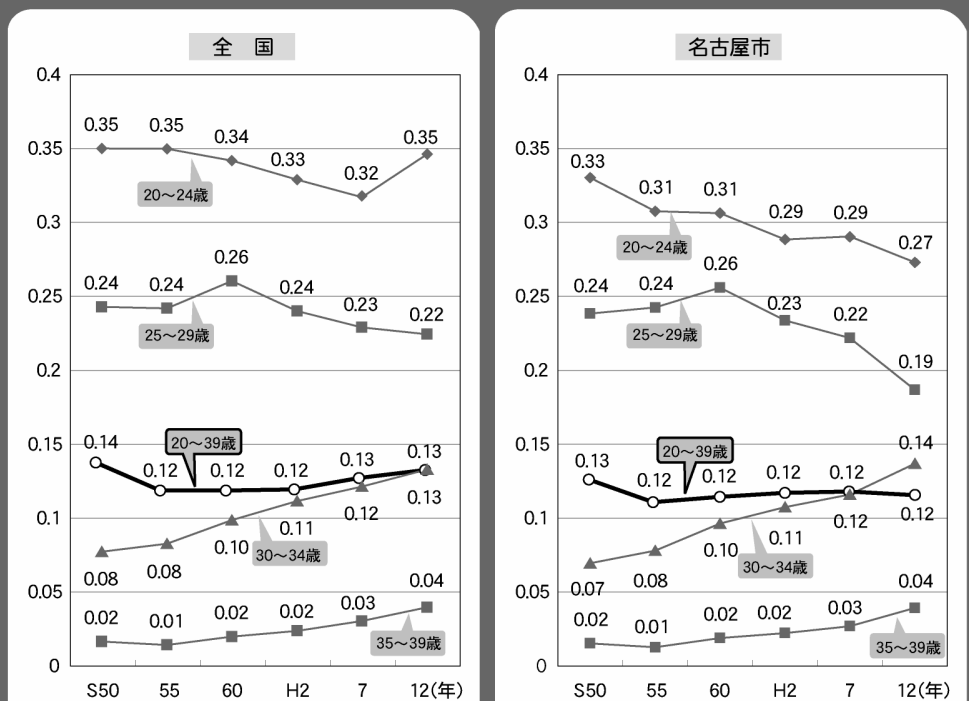


(厚生労働省「人口動態統計」、名古屋市健康福祉年報による)

④ 夫婦の出生力の低下

有配偶出生率の推移をみると、20～29歳は減少傾向にあり、逆に30～39歳は上昇傾向にありますが、20～39歳全体では減少傾向にあります。

有配偶出生率の推移 (※有配偶出生率=出生数/有配偶女性数)



(総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」による)